

第 24 回 津市子どもの権利条例づくり推進市民委員会 報告

日時:平成 25 年 2 月 6 日(水)18:30~

場 所:津市リージョンプラザ2F 健康教室

<参加者> (敬称略)

岡村 裕 (三重県児童擁護施設協会)、石山佳秀 (NPO 法人フリースクール三重シューレ)、辻 忠雄 (〃)、堀本浩史 (すばる児童館)、田中利美 (津市民生委員・児童委員連合会)、増田和正 (津市人権・同和教育研究協議会)、渥美博 (津市人権課)、石川靖代 (子ども家庭課)、堀内咲子 (津市こども総合支援室)、浅生伸之 (〃)、丹羽敬二 (〃)、大野維佐子 (〃)、外岡博明 (津市教育委員会事務局人権教育課)、永合哲也 (〃)、田部眞樹子 ((特)津子ども NPO センター)、竹村 浩 (〃)、浅原直美 (〃)、山口久美子(〃)、谷口美子 (〃)、中橋千枝美 (〃)、平澤田代 (〃)、川喜田ひろ美 (〃)

進行:浅生

●第 23 回市民委員会(2012 年 1 月 23 日)報告

・竹村事務局長より報告

●この間行った全体、チーム別会議等の報告及び検討

●検討事項

【広報チーム】

* ホームページの情報発信について

- ・各チームのホームページ発信の担当者は決まっているが、発信が出てこない。チームから担当者を出して話あってみてはどうか。→これは引き続き継続協議になる。

* ホームページの CMS について

- ・ホームページの CMS のできるところが限定されるので、どういう所を自分達でしていきたいのか。
- ・ CMS はワードで入力、PDF でアップすることができるので、頻繁に更新する必要があるところを優先したらどうか。
- ・子どもの声を独立させることは→OK
- ・市民委員会の議事録は PDF が妥当か？ CMS だと組織で責任を持って更新できるようになるなら CMS のほうがいいのでは。
- ・ CMS を 1 つ増やすと予算的には 6 万円プラスにはなるが、来期に予算を立てる方向でいいのでは。
- ・ CMS を 4 つにすることで承認。

* ホームページのデザインについて

- ・メーリングリストで送った 2 案で決めていただきたい。
- ・写真は入れ替えられるのか。(津の子どもたちの写真に)
- ・肖像権の問題があるのでは。
- ・本人の承諾、保護者の同意がいるのでは。
- ・保護者の同意は何故いるのか。本人が納得しなければ別だがどうなのか。
- ・法律では自分で判断できる年齢を 14 歳とはなっている。法的にはそうだが、権利のことをしている私たちは本人の意思を一番大事にしたい。議論していく必要があるのでは…。法的に決まっていることが「はい」ではない。
- ・写真のことは差し替えができるのか？ 予算的にはどうなのかもう一度石山さんから業者に確認

してもらふことになる。

★21,053 人の子どもの声アンケート分析を市民委員会で行った。

【①自己肯定】

メンバー：浅生、岡村、堀本、永合、辻、田部、山口、平澤

○設問 1、3、4、5 を通して子どもたちの気持ちを考えた。

- ・年代に限らず比較の中で子どもたちが暮らしている。
- ・小学生低学年はことばに出して言う。中学生はインドのカースト制度のようにランクをつけている実態
- ・分析には根拠が必要。立証や裏づけも必要。だが感覚が大事（～と思われる・～と考えられる）

○自己肯定感はどうやったら育つのか

- ・受け取るだけでは対処療法
- ・答えは出ていない。周りの大人の関わり方が大事

↓

- ・報告会の中で提言していく

↓

- ・津市だったらどういう施策が必要か、子どもの権利条例づくりにつなげていく

【②他者からの評価(大切にされているか)】

メンバー：堀内・大野・竹村・浅原・中橋

○Q2. あなたは家族や先生や友達から、自分が大切にされていると覚っていますか？

- ・87 パーセントの子どもたちが覚っていると覚えているこれは本当なのか？
- ・本当にまわりから大切にされていると覚えているのか。自由記述を見ても。
- ・怒ってくれるという記述が頻繁に出る。→親からあなたのためやと、刷り込みがあるのでは。
- ・ご飯を作ってくれる→自分の望んでいる事だけ満たされたらOKではないのでは。気持ちの裏を見る。
- ・中学になったら好きにしろになる。親子の対等な関係が薄いのではないか。

○Q1. 自分の気持ちを聴いてくれる人がいますか？

- ・聴いてくれることは物理的満足を得る事はできる。
- ・小学生は現実な話が多い。中学生になったら向かい合うことなど、質がかわる。
- ・本当の意味で大事にされるとは…
- ・権利の視点から見ると、声にならない声をくみ取る。
- ・言わないのか、言えないのか。
- ・表面的な部分だけではなく、否定的な部分を見る。記述では自己否定になっている。
- ・高校生で人を大切にすることが分からない子がいる。
- ・感謝は人と関わる必要がないと生まれぬ。自分が一番の中では考えぬし、感覚は分からぬ
- ・存在価値がない。などの否定的な感覚は自分が大事でぬのに人のことは大切にできぬ。
- ・記述には、子どもがどう思っているかが出ている。数パーセントでも気持ちが隠れているのでは
- ・思わぬをきっちり見る。何が見えるのか読み取る。メッセージだから理論的に考えクロス集計へ

- ・中学生がなぜ低いのか(縛りがきついのは)休めているのか？
- ・まあまあ休めているが8割もあるが、きつい縛りに慣れてしまっているのでは
- ・これが高校でまた上がる。
- ・中学は人にどう思われているのか気になるようである。
- ・高校は諦めや、麻痺してるのでは。
- ・主体的ならいいが社会的な対等な関係性がないのでは
- ・中学は混沌としているのでは。他者から評価が問われるのでは
- ・高校では先が見えてくるのでは。
- ・思い込みで見る事→OKなのか？本当か？うそか？裏を見る。

○Q2×Q4のクロス集計でみる

- ・自己肯定が高いと回りからも大切にされている→8割
- ・愛着形成のことが関わっているのではないのか。
- ・すなおに受け止められると自己肯定が高いとポジティブにとらえられる。
- ・人との関係性で子どもたちがどう受け止めているかが出る。

【居場所】

メンバー：石山・丹羽・外岡・増田・川喜田・谷口

分析委員会のメンバーから、担当した設問について、分析して感じたことが出された。

それを聞いて、それぞれに意見や子どもたちの状況について感じていることを話し合った。

○「安心の居場所」について

- ・安心の居場所が高学年の子どもたちのところでは、逃げ場所になっている。
- ・「ない」と回答した理由のところ、どこにいても1人、常に戦場と書いてあったのが印象に残っている。
- ・人との関係がないところが安心できるのは、空気を読んだり、世間を意識するからでは。
- ・子どもが安心していられるのは、ありのままでもいいんだと感じられるところ。
- ・人格を否定されないで存在できることを実感できる場所。
- ・本来は、人との関わりの中で安心できることが大事では・・・一緒に生きている。
- ・不登校の子どもが登校してきた時に、「よう頑張ってきたね」と声をかけた・・・当たり前を受け止めることができなかった。がんばって学校に来るのがいいという私の価値観を実感した。
- ・関係性の中で苦しんでいる。人は傷つけられる。
- ・いじめは、被害者のカウンセリングをしているが、加害者自身が親に愛されていない状況があるので、そのことを含めた環境の改善が必要。

○「意見を尊重」について

- ・分析していて小学校低学年では「尊重」の意味がわからなくなって、答がずれていく。回答を正確に読むのは無理で、主観的になってしまう。
- ・低学年では親や周りの友だちに、日常のことで意見を尊重してほしい（要求を聞いて欲しい）と思っているが、中高生になると進路のことが多くなる。
- ・意見の対立が起きないように、常に意識しているのでは。
- ・話し合うことが縛り合うことになっていないか。

★報告会(3月2日県庁講堂)に向けて

声チームから提案

- 全体司会を広報で考えられないか。→広報チーム会で見当することになる。

○ファシリテーターをどうするのか？

堀本、堀内、永合、大野、渥美、丹羽、外岡、山口、平澤、浅原、谷口、名前を出したがここに居る全員であることを了承した。

- ・石山さんにはシューレーの千々岩さん、辻さんに聞いてもらう。
- ・ファシリテーターの打合せは、2/28 13:00～15:00 15:00～作業(報告書を閉じる作業)
- ・ファシリテーターは市民委員会で関わっての率直な意見などを出し合ったらどうか。
- ・ファシリテーターによって違っててもOK。
- ・グループの意見をまとめなくていいのでは。反対の意見は大事である。
- ・報告会現在出席者 100 名を超えました。グループ分けをしないといけないので、2月20日くらいを締め切りとしたい。

○パネル展示をしてはどうか。

- ・今までの経緯とか。市民委員会の動きとか。市民委員会の団体のパネルをつくるのはどうか。
- ・団体パネルは、するんだったら全団体に呼びかけないと意味がない。
- ・ミッションパンフでも構成団体を見る人がいるので出した方がいいのでは。
- ・視覚で訴える事もいるのでは。
- ・団体の関わり方がそれぞれ違うので事務局として働きかけるのはしんどい。
- ・構成団体の紹介パネルは、報告書に書いてあるので今回はつくらないことにした。
- ・チームとしての活動報告のパネルはどうか？
- ・全体の活動を展示するのはOK。活動紹介は各チーム会で作るようになった。

オープンディスカッションについては、時間がなく報告はなかった。

●次回市民委員会 2013年3月22日(金) 18:30～ 津市本庁舎 8階 大会議室B